

## 教職課程のスペシャリスト

### Teacher-training curriculum specialist

坂本徳弥\*

SAKAMOTO Tokuya\*

キーワード：教育心理学者，教職課程研究運営

Key words：educational psychologist, teacher-training curriculum development

2021年3月に定年退職となられる宮川教授と私は1971年に出会った。静岡大学教育学部の心理・教育専攻において宮川教授は私の1年先輩であり、それからずっと私は先輩の背中を見て学ぶことができた。御恩に深く感謝申し上げる。

宮川教授は博士（教育心理学）で、著書24冊、学術論文69編の業績があり、教育心理学者・発達心理学者である。20世紀末までの主な研究は、日本の幼児・児童における熟慮性－衝動性認知様式に関する研究であり、そのテーマで博士論文をまとめ、名古屋大学大学院で博士（教育心理学）の学位を取得された。また、1990年代は日本にやってきた外国籍の幼児・児童の異文化適応に関するフィールド研究に取り組み、パイリンガルの発達過程やトランス・カルチャリズムの獲得といった異文化間発達心理学の研究を開拓された。

その後は、青年期以降の発達障害（神経発達症群）の併存症・2次障害、素行障害や犯罪傾向を持った特異な事例研究、アメリカ精神医学会の改訂診断基準DSM-5やWHOの交際疾病分類ICD-11の神経発達症群の紹介・解説などにも取り組まれた。また、そうした臨床発達心理学領域の研究と平行して、さらに独自の研究テーマに取り組んでいかれた。

熊野観心十界曼荼羅、田園俳人松本椿年の生涯と作品などに関する研究がある。研究テーマの幅がとても広いが、いずれも心理学が根底にある。例えば、熊野観心十界曼荼羅、田園俳人松本椿年の研究については、科学的な心理学に無関係のように見えるが、実際は、生涯発達心理学の立場からの研究であり、熊野観心十界曼荼羅はシリーズで14編の論文になり、宗教民俗学や文化財研究といった領域に、多変量解析の階層的クラスター分析といった科学的な統計分析の手法を使って、独自の研究成果を示した。また、近年取り組んでいる田園俳人松本椿年シリーズは7編の論文を発表し、明治・大正・昭和に亘る超高齢者の生涯と日本の社会の変化を、俳句というジャンルに生涯発達心理学と事例研究の方法を用いた新しいアプローチを開拓した。

社会的活動では、日本発達心理学会機関誌編集委員、日本

心理学会専門別代議員、日本質的心理学会会務委員及び機関誌編集委員、日本臨床発達心理学会東海支部長、日本パーソナリティ心理学会機関誌編集委員会常任編集委員、東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会代表世話人、全国私立大学教職課程研究連絡協議会理事等を務められている。

学内では、椋山女学園大学文学部教授、国際コミュニケーション学部教授、教育学部教授、同学部主任（初等中等教育専修担当）、椋山女学園大学大学院教育学研究科教授、同大学院教育学研究科長、椋山女学園学園評議会評議委員などを歴任されている。

大学運営面では、全学教職課程委員会委員長として、15年以上にわたり尽力して来られ、教育学部の教職課程だけでなく、7学部11学科、4研究科の教職課程の運営の調整を行って来られた。教職課程の運営については、学内では宮川教授が一番詳しく、また、貢献されてきた。教育学部では2007年から15年間、私は宮川教授の隣の研究室にいて、一緒に仕事をさせていただくことも多かったので、よく知っている内容について、以下、4つの大学あるいは社会への貢献について紹介する。

#### 1. 実地視察への対応

2012年7月5日の文部科学省による教職課程認定大学実地視察では、全学教職課程委員会委員長として先頭に立って準備をされた。視察を行う委員は、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会の委員（2名）ほか、愛知県教育委員会（1名）、名古屋市教育委員会（1名）、文部科学省職員（3名）であった。当日は学長、学長補佐、図書館長、研究科長（2名）、学部長（7名）、教育学部主任（2名）、教職課程委員（9名）、事務職員（11名）とともに全学教職課程委員長として対応し、椋山女学園大学の教職課程運営が順調に行われていることを説明し、無事に終了することができた。宮川教授の教職課程に関する知識と手腕が大いに発揮された場面であった。

\* 椋山女学園大学教育学部

## 2. 教員免許状更新講習の企画・運営

2012年度から2021年度まで計10回にわたって教員免許状更新講習を全学教職課程委員会委員長として企画・運営し、東海地区の幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教員免許状更新手続きを必要とする教員の方々に講座を提供した。必修講座の「学校教育の最新情報」だけでなく、各教科に対応した選択講座の企画・運営を行い、事務職員の方々の協力も得て無事に終了させることができた。特に、2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策として遠隔方式に切り替えて実施するなど、新しい対応も行った。

## 3. 東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会の運営

2012年度から2017年度までの5年間、愛知県、岐阜県、三重県を中心として、静岡県や北陸地方の一部の大学を含む40以上の大学、短期大学が加盟する東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会代表世話人をされた。年4回の定例研究会及び、年1回の全国大会への東海・北陸地区としての分科会の企画・運営を行った。同時に、全国私立大学教職課程研究連絡協議会（現在の一般社団法人全国私立大学教職課程協会）理事の仕事もされた。以下、私も一緒に参加させていただいた全国大会について紹介する。

- 【2014年5月】帝京平成大学での分科会に参加。テーマは「教職実践演習の実施と課題」であった。
- 【2014年11月】北海学園大学での「教職課程運営に関する研究交流集会」に参加。
- 【2015年5月】仙台大学での分科会で司会を担当。テーマは「教員養成系学部学科における教員養成と課題—幼稚園・小学校教諭と複数学校種免許状の取得と養成—」。また、「椋山女学園大学教育学部の実践と課題」というテーマで研究発表も行った。
- 【2015年11月】金城学院大学での「教職課程運営に関する研究交流集会」に参加。地元開催であったので、代表世話人として、東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会の世話人とともに企画・運営を行った。

- 【2016年5月】京都精華大学での分科会で司会を担当。テーマは「教員養成を主目的とした学部の実践と課題—教育活動の特色とその課題—」。
- 【2017年5月】玉川大学での分科会で司会を担当。テーマは「『主体的・対話的で深い学び』を指導できる教員の養成—教えから学びへの転換—」。
- 【2018年5月】酪農学園大学での分科会で司会を担当。テーマは「実践に生きる授業づくり—教材・教員活用を組み込んだ教科・教職科目の実践—」。
- 【2019年5月】近畿大学での「教職課程運営に関する研究交流集会」に参加。

## 4. 大学院教育学研究科の運営

2017年度から2020年度までの3年間、椋山女学園大学大学院教育学研究科長として、研究科の運営をされた。授業担当科目は、「教育心理学特論」、「臨床発達心理学特論」であり、毎年、受講者がいて人気科目であった。「特別研究」も担当され、1名の院生を修士課程修了させた。

また、私が担当した「教職インターンシップⅠa」「教職インターンシップⅡa」の授業にも研究科長として積極的に関わり、椋山女学園大学附属小学校を始め、名古屋市立栄小学校、名古屋市立白鳥小学校での院生の研究授業も参観され、授業後の指導にも参加していただいた。

以上、私が実際に見聞したことを中心に宮川教授の活躍ぶりを紹介した。教育心理学者としての研究活動だけでなく、教育学部や教育学研究科、全学教職課程委員会の運営で活躍するとともに、東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会の運営で大きく貢献されてきたことがわかる。宮川教授の研究室は、毎日、夜遅くまで部屋の電気がついており、たくさんの仕事をされていた証拠である。

なお、プライベートの部分では、ワインを好まれていた。これは、50年前に静岡でお会いした時に、下宿の部屋にいろいろな種類の果実酒が並べられていたことと通じるものがあると思われる。